



# 消防学校 ニュース



令和3年12月号

## 中級幹部科(第35期)

～君之所以明者、兼聴也～

令和3年11月2日(火)から11月12日(金)までの8日間、中級幹部科を実施し、県内12消防本部(局)から消防司令の16人が入校しました。

この中級幹部科は、組織を担う幹部職員として消防業務及び社会全般の動向について理解を深め、組織マネジメントと災害対応時に的確な意思決定と指揮ができる事を目的としています。消防関係者の他、警察や医療関係(DMAT)、報道機関の講師を招いた多岐にわたる内容の教育を実施しました。



### (担当教官から)

組織の中核を担う方々にとって、少しでも業務に反映していただけるようなカリキュラムを目指しました。経験豊かなベテラン職員の講話や人材育成の先進事例等、入校生はいずれの科目にも積極的に取り組み、活発に意見交換する姿が見られました。特に、香川県防災センター長(元高松市消防局長)の監督技術の講義では、民主的な職場の大切さやリーダーのあるべき姿について論じられ、各自大いに刺激を受けたようでした。

8日間という短い期間でしたが、この中級幹部科で得られた「学び」や「横の繋がり」を糧に、各所属でリーダーシップを発揮していただければと思います。

教務課主査 吉瀬 大介(富士山南東消防本部より派遣)

## 女性消防吏員講習（第4回）

～自分らしく活躍するために～

令和3年11月24日（水）から11月26日（金）まで、女性消防吏員講習を実施し、県内6消防本部（局）から8人が参加しました。女性消防吏員としてのキャリア形成を考え、職務の範囲を拡大するための知識及び能力を習得することを目標に、今年度から教育日数を1日（7時限）増やし、2泊3日での実施となりました。この7時限の内6時限を実科訓練にあて、ホーストレーニング・注水要領・水平かかえ救助・自力脱出訓練を行いました。

女性活躍推進の講義については、入校生以外の消防職員も聴講可能とし、清水海上保安部の児玉様と山本様を講師に招き、海上保安庁の業務内容、仕事と家庭の両立についての話をいただきました。

その後、講師及び聴講者にも参加していただき、「働き続ける上で不安なこと」をテーマに意見交換を行いました。



### 講習修了後の学生の感想

- ・ 県内の女性職員の抱えている悩みや不安を知ることができ、自分だけではないと感ずることができました。意見を交換したり共有できて、とてもよかったです。
- ・ 様々な所属や世代の不安を知ること、自分について振り返りをすることができました。共通する不安もありましたが、多くは自分を感じない不安であったので、勉強になりました。
- ・ 出産、育児、介護に関する休暇や休業の制度を利用することの重要性を教してもらいました。
- ・ 消防と海上保安庁、職は違うが仕事と家庭の両立の難しさ、また、海上保安庁の結婚後の異動について、男性が優勢である現状を知ることができました。
- ・ 訓練において、男性教官に要救助者役をやってもらい、女性だけでもパワー不足や能力不足にならないことを証明したい。その訓練を幹部の方に見てもらえれば、職務範囲の拡大に繋がっていくのではないかと。

#### （担当教官から）

教育時間の半分が実科訓練という厳しいカリキュラムでしたが、学生8人の座学や訓練に取り組む真剣な姿を見て、頼もしさを感じるとともに、総代の浜松市消防局の市川さんを中心に和やかな雰囲気講習を終えることができました。

環境や年齢が異なる職員が集まり、様々な意見や情報を交換できたことは今後の励みになったことと思います。この繋がりを大切にして仕事に活かしてもらいたいです。そして、仕事とプライベートを両立し、充実した生活を送れるよう頑張っていきたいと思います。

教務課主査 飯塚 幸代（御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣）



## 処置拡大追加講習（第7回）

## ～高度な救命処置に向けて～

令和3年11月30日（火）から12月3日（金）まで、処置拡大追加講習を開催し、県内6消防本部（局）から54人の救急救命士が参加し、救急救命士が病院への搬送前の救急活動において実施できる特定行為（医療行為）の資格の認定に向けた講習に取り組みました。その特定行為とは①心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保と輸液②血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与です。救命率の向上を図るための平成26年1月の法令改正により、医師や看護師しか実施出来なかった処置が、救急救命士も出来ることとなりました。

これまでは心肺機能停止後しか認められていなかった処置が、心肺機能停止前も可能となったことで、救急救命士には、より高度な観察と手技が求められるようになりました。



オリエンテーション



指導救命士による講義



静脈路確保と輸液



ブドウ糖溶液の投与

### （担当教官から）

今回受講した54人は、各消防本部の救急現場において第一線で活躍する方々で、事前に自主学習や訓練などを履行されたこともあり、実習等はスムーズに進みました。講師の医師や指導救命士（指導的立場の救命士）からのアドバイスを受けて懸命に取り組む姿に、救命に対する熱い想いが感じられました。

本講習を修了した54人の精鋭は、静岡県MC協議会による認定後、いよいよ救急現場でこの特定行為を行います。地域住民の生命身体の保護と幸せのために、これからの活躍を祈念しています。

前進あるのみ！

教務課主査 山田 友也（静岡市消防局から派遣）

## 県新規採用職員研修

## ～ 静岡県は私たちが守る ～

新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期された県の新規採用職員研修が、令和3年11月16日（火）から11月18日（金）までの3日間で実施され、205人が参加しました。

大規模地震等の様々な危機対策において中心的な役割を担う県職員としての自覚を促すとともに、県の危機管理体制を理解することを目的に、各種訓練を実施しました。

研修生は、初めて臨む訓練に戸惑いながらも、仲間と協力し、精一杯取り組みました。訓練終了時には、各人の行動はきびきびとし、顔つきも引き締まりました。

### (担当教官から)

研修生は、県職員として様々なかたちで災害対応に当たることになります。この研修が新規採用職員の意識を高めるための一助となれば幸いです。

教務課主査 谷澤 俊光（県職員）



太田校長訓示



静岡県地震防災センター金嶋所長講義  
(静岡県の地震対策)



規律訓練



濃煙避難訓練





屋内消火栓による放水訓練



救急実技

## 原子力規制庁火災防護訓練



空気呼吸器着装訓練



ポンプ車の構造説明



ドールハウス燃焼実験



防火衣完全着装訓練

令和3年11月1日(月)と2日(火)に、原子力規制庁(火災対策室)主催の研修が本校で実施され、原子力規制事務所の環境技官等14名が参加しました。この研修は、参加者が火災防ぎよの知識・技術を習得する目的で初めて実施され、本校は訓練場所の提供や講師として協力しました。

1日目に、安全管理等の座学や空気呼吸器やポンプ車を使用した訓練を行い、2日目は、ドールハウス燃焼実験や、実火災体験型訓練を実施し、火災性状に関する理解を深めました。

# 太田校長のちょっといい話



12月になり、警防科、火災調査科の学生が入校し、土日も消防団の指揮幹部科分団指揮課程、初級幹部科教育が実施され、本校も久しぶりに賑やかになっています。

また、本校もやっとモバイルパソコンへの更新が終わりましたが、社会全体のICT化がどんどん加速する中、消防においてもドローンや情報収集分析システムの導入等が進み、救助ロボットや遠隔操作消防車の開発も進められていることから、消防学校もこの流れに沿った教育を求められて行くことになるのだと思います。

しかし、いくらICTが進みAIが発達したとしても、最後は人間の判断や想像力が必要ですし、(そうであってほしいです。)新しいことにチャレンジすることは、人間の特権ではないかと思しますので、今月は、無謀ともいえる挑戦によって世界的企業を創業した2人の言葉から選んでみました。

**「偉大な大工は、誰も見ないからといって床裏にひどい木材を使ったりしない。」** Apple創設者のスティーブ・ジョブズの言葉です。

Apple社の製品は、どれも機能だけでなくデザインにも優れていることで有名ですが、スティーブ・ジョブズは、見えるところだけでなく、基盤にまでデザイン性を求めているそうです。

性能を追求すると機能美が生まれ、シンプルだけど優雅で誰もが使いやすい製品に仕上がるのだと思いますが、消防車も性能を追求していくことにより、カッコいい車両になっていったのかと思います。

仕事でもシンプル且つ分かりやすい資料作成やプレゼンテーション能力が必要ですが、どうしてもあれもこれもとなって、枝葉ばかりが多くなり本来の趣旨、目的がかすんでしまうケースを多々目にしますが、自分も反省しなければと改めて思います。

**「チャレンジして失敗するよりも何もしないことを恐れろ。」** HONDAの本田宗一郎の言葉です。

本田宗一郎は、様々な逸話や名言を残されていますが、自分は30年以上前に読んだ海老沢泰久著の「F1走る魂」の中でのインパクトがすごく強烈でした。

2輪車が主力で、4輪車を作り始めたばかりでしたが、いきなりF1に挑戦するし、部下には無理難題ともいえるような指示を出し、現場に来て弱音を吐く部下をどやしつけたりと今の世ならパワハラで訴えられることの連続でした。しかし、F1チームをはじめ会社全体がF1で勝つのだというアドレナリンが出まくり状態で、その頂点に本田宗一郎が居たのだと思います。

スティーブ・ジョブズも本田宗一郎も世界的企業のカリスマ創始者ですが、自分が信じたこと、やりたいことにはそれこそ全力を傾け、周りの人間もそれに感化されて、素晴らしい結果を出すことになったのだと思います。

チャレンジすることの重要性とプロとしての意識について、学校でも話す機会があれば、伝えていきたいと思っています。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1  
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: [fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp)

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

